

# 被災地応援の取り組み

社友会分会 ネットワーク委員会

■今年も地震や台風など、甚大な自然災害に見舞われた地域が多くありました。中でも、台風が一五号・一九号・二二号と相次いで通過・接近した千葉県は、残念ながら関東最大の被災地となりました。心よりお見舞い申し上げます。

しかし、東北各県に比べて自立できないものの、千葉県は八年前の東日本大震災でも被災していません。その最大の被災地が、今年の訪問地「旭市」です。

## 「旭市」のアクセス

「旭市」は、千葉県の北東部、南は美しい弓状の九十九里浜に面し、北には干潟八万石といわれる穀倉地帯となだらかな丘陵地帯である北総台地が広がっています。具体的には、東西を銚子市と匝瑳市に挟まれ、北は香取市と東庄町に接しています。平成一七年に旧旭市・海上町・飯岡町・干潟町が合併して誕生した、人口約六



万五千名の市です。東京からのアクセスは、JR特急「しおさい」利用で約九〇分、高速バスで約一〇〇分、自家用車なら約八〇分と比較的楽に行ける距離にあります。

## 被災地「あさひ」

私たちは、東京駅八重洲口午前九時一〇分発の犬吠埼行き高速バスに乗り、首都高から東関東自動車道を経て「旭市」に入って、一時間過ぎに「飯岡保健センター」バス停に到着しました。ここから九十九里浜に向かって一五分ほど歩くと、萩園海岸に面して「いいおか潮騒ホテル」があります。目指す「旭市防災資料館」はその中にありました。

「旭市防災資料館」に入ってもまず目に入るのは、押し寄せる大津波の模様を、自衛隊機・飯岡漁港・「いいおか荘」等から、連続して写したパネルでした。そこには想定外の現象に唾然とする撮影者の驚愕が投影されています。

平成二三年三月一日午後二時四六分に発生した東日本大震災(M



(第2波の大津波が旭地区を襲う)

九・〇)については、皆さまご承知のとおりです。その際、「旭市」も震度五強の強震に見舞われたものの、揺れによる人的・物的被害はさほどでもありませんでした。しかし、《被害状況》にあるように、地震による大津波の襲来や液状化現象の発生が被害を大きくしました。

《被害状況》 2012年3月1日現在

- 人的 死者 14名 行方不明 2名
- 住家 (世帯)

|       | 地震 | 津波  | 液状化 |
|-------|----|-----|-----|
| 全壊    | 3  | 233 | 100 |
| 大規模半壊 | 4  | 212 | 216 |
| 半壊    | 16 | 232 | 261 |

- 船舶 85隻
  - ・転覆 12隻
  - ・接岸 40隻
  - ・乗り上げ 30隻
  - ・不明 3隻
- 車両 334台

## 多くの人が油断したときに

地震の発生から三分後、気象庁は九十九里・外房沿岸に想定二mの「津波警報」を発表しましたが、二分後に想定三mの「大津波警報」に変更します。直後に茨城県沖で余震(M七・五)が発生し、「旭市」で再度震度五強を観測しました。それから一五分後の三時三〇分、気象庁は津波の高さを一〇m以上に再度修正しました。

幾何もない三時四〇分頃、最初の津波が飯岡漁港に到来しました。次いで四時二〇分頃にも第二波の津波が襲来しましたが、いずれも警報の想定を下回る高

さどということでした。

第一波から一〇〇分が経ち、人々がもう終息かとホッとした五時二〇分、最高七・六mと推定される第二波の大津波が押し寄せたのです。これが行方不明二名を含む一六名の人命を奪いました。大津波は海岸からほぼ一キロメートル内陸にまで達し、「旭市」の海岸地帯は壊滅状態となりました。



(大津波によって破壊された海辺の街)

### 甚大な震災被害に風評被害も加わって

県内第二位の水揚げ量を誇る飯岡漁港には、一八九隻の漁船や遊漁船がありました。震災当日、地震後に津波警報が発令されると、一部の漁師は慌てて自分の船に乗り込み沖へと避難しましたが、停泊していた船のほとんどは港内で津波に遭遇し、転覆・乗り上げ・衝突などにより八五隻が破損しました。

この結果、地震後二月いっぱい漁港が閉鎖されたことも相まって、三月の水揚げ量は前年比一七・五%となり、四月も同一・三%と著しく落ち込みました。

また、釣り船の休業、堤防・消波ブロック破損による海水浴場の休業、さらに「かんぼの宿旭」や「いいおか荘」などホテルや旅館の被災による休業などで、海沿いの人気スポットへの観光客も大きく減少しました。

加えて、津波による七四haもの水田・畑の浸水、地震・液状化による七六ha分の農産物被害で、農産物の出荷も前年を大きく割り込みました。

それに追い打ちをかけたのは、福島第一原発事故による風評被害でした。事故後、旭市産の春菊から放射性ヨウ素が検出されたことから、野菜等の農産物の出荷を自粛せざるを得ませんでした。水産業や水産加工でも同様に放射性物質検査を余儀なくされ、復旧に水を差す厳しい状況が続くことになりました。

### 多くの支援に励まされ

地震発生後、津波警報が発表されると、一〇か所開設された避難所に身を寄せる人が増えてきました。余震が続く、生活インフラが停止したこともあり、震災当日は三千人近くに上りました。

生活インフラの復旧に伴って、避難所の人数は徐々に少なくなり、避難所も四か所に統合されましたが、五月二日に閉鎖されるまでの七三日間、引き続いて開設されていきました。

厳しい避難所生活の中で、嬉しいことに当時の天皇皇后両陛下が、全国の被災地慰問



(ご訪問いただいた天皇皇后両陛下)

の最初に旭市にお越しになり、被災者ひとり一人を励まされました。大相撲・プロ野球・サッカーなど一流のプロスポーツ選手のほか、スリランカ・ベトナム等の在日外国大使館や芸能グループなど、多くの団体・個人が避難所を激励訪問してくれました。

姉妹都市などからの緊急支援のほか、七千六百人以上の全国からのボランティア来援、合わせて五億円を超える義援金や支援金等の助力を得て、「旭市」は復興に向かいます。五月には二〇〇戸の応急仮設住宅が完成したほか、街並みの復旧や市民生活の再建が徐々に進み、漁業・農業・商業・観光業なども年末近くになると元の水準に戻りました。

### 魅力的な「旭市」を体感しよう



(新設された避難塔)

「旭市防災資料館」を出ると、すぐ横に新設された津波避難塔が聳えていました。目の前の海岸にはサーフボードが多数浮かび、右を見れば座頭市物語発祥の碑があります。またチラホラ見える被災家屋跡の空き地を気にしながら、銚子行きのバス停に向かいました。「ぬれせんべい」の銚子電鉄・銚子港の新鮮な海産物・醤油工場・犬吠埼など、有名観光スポットは「旭市」からすぐ近くです。

「旭市」の震災直前の宿泊客は年間二万人。震災により八万四千人まで減ったものの、三年後には一三万人前まで増加しました。しかしながら、最近は一万人前後と低迷しています。場所的にも東京から至近の観光スポットです。是非一度お出掛けください。